

「教養の森」ゼミナール特別講義 12/18(金) 4限

教養って何なんだろう？

栄谷通信

発行：
国立大学法人
和歌山大学
広報室
和歌山市栄谷
930



池内氏編集の寺田寅彦エッセイ集は
今期の「教養の森」ゼミナールで
教科書として講読されている

『科学と科学者のはなし』を片手に、教養について考えるわだにゃん=和歌山市の和歌山大学で

12/18(金) 4限
[14:50~16:20]
於 **G-103 教室**

「教養の森」ゼミナール特別講義：
「教養って何なんだろう？」

いけうち さとる
特別講師：**池内了氏**

プロフィール

専門は宇宙論・宇宙物理学、科学と社会。1944年兵庫県姫路市生まれ。名古屋大学名誉教授・総合研究大学院大学名誉教授。京大、北大、東大、国立天文台、大阪大学、名古屋大学、早稲田大学、総合研究大学院大学を歴任。現在は科学と社会の関わりについて教育・評論活動に従事し、「新しい博物学」を提唱。著書に、『疑似科学入門』、『現代科学の歩き方』、『禁断の科学』、『科学者心得帳』、『科学の限界』、『科学・技術と現代社会』などがある。世界平和アピール七人委員会の委員でもある。

我が国を代表する科学者（名古屋大学名誉教授） 池内了氏の特別講義を全学に開放

「長い目で見てこそ価値があるものを探し出してじっくり育てる習慣を回復しなければならぬ。大学とか研究開発法人とか名をつくる研究機関は、そのような地道で基礎力を養うような研究に専念できる場となるべきなのだ」（『現代思想』二〇一五年十一月号、青土社）

大学の終焉、と銘打たれた特集内で日本の将来への危惧を表明した池内了氏が

「長い目で見てこそ価値があるものを探し出してじっくり育てる習慣を回復しなければならぬ。大学とか研究開発法人とか名をつくる研究機関は、そのような地道で基礎力を養うような研究に専念できる場となるべきなのだ」（『現代思想』二〇一五年十一月号、青土社）

池内氏が編集した『科学と科学者のはなし』寺田寅彦エッセイ集（二〇〇〇年、岩波書店）をテキストに議論を展開中。「満員電車」「花火」「化学物」「音楽」……「科学と文学の双方に通じた」戦前の物理学

人間になるために

Wakayama University
図書館新棟 4階

来る金曜日「森ゼミ」は池内氏を迎え、日本における「大学教育」「教養教育」の来し方行く末について、受講生と一緒に考える。一時間半の講義は、和歌山大学すべての学生、教職員に対して開放される。

